はじめに

令和4年度大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会委員長 山 倉 健 嗣

令和４年度のFD活動報告書をお届けいたします。報告書の作成にご協力をいただいた教職員の皆様に心から感謝申し上げます。本報告書は令和４年度のFD活動をまとめたものです。全学及び学部、研究科のFD活動、FD研修から構成されており、本学のFDに対する取り組みを知ることができます。

令和４年度の授業は対面８割、オンライン２割で授業が行われました。令和２年度、３年度とは異なり、緊急事態宣言の発令に影響されることなく、授業は進行しました。対面授業とオンデマンド授業が併存する状態が定着してきました。教職員、学生が協力し、特段の問題もなかった１年でした。今までの経験の蓄積によりスムーズに授業は行われました。

学生の授業評価は昨年同様、教員の授業方法・内容の改善を目的とし、「授業改善のためのアンケート」として位置づけられています。今年度も昨年同様、Webで授業評価を実施しました。回収率を向上するという目標でした。教員・教育支援センターの度重なる督促などの努力を行ったのですが、今年度は４０％を切る結果となりました。回収率向上は今後の重要課題の一つと考えます。令和４年度の授業評価も昨年度のアンケート項目を継続し、経年変化がわかるようにしています。学生の授業評価の詳細は本報告書をご覧ください。学部ごとの違いを知ることもできますし、授業時間以外の学修時間は少ないという課題は今も続いています。

令和４年度もFD委員会主催による、全学のFD講演会を前期後期の２回無事に昨年同様オンラインで開催することができました。前期は７月２２日に京都大学学生総合支援機構准教授村田淳先生を講師としてお迎えし、「障害学生に対する合理的配慮の実際―改正障碍者差別解消法の施行に向けて大学が取り組むこと」というテーマでご講演をいただきました。具体的例をもとに合理的配慮の必要性・意味が理解できる講義でした。後期は１２月１６日に「学生の主体的・協働的な学びを実施できる授業―大学におけるPBL」というテーマで行いました。前半は本学家政学部被服学科教授吉井健先生による講演「被服学科における創造性あるPBLと波及効果」、後半は株式会社イノベスト代表取締役松岡洋祐氏による講演「企業人とともに学ぶ社会連携事例」でした。PBLを展開するうえで、学生の参加を通じた学びにつなげること、企業との連携の進め方について実践的な示唆をいただきました。ご講演いただきました３人の先生に感謝申し上げます。各学科・専攻の授業担当者懇談会は対面あるいはオンラインで行われました。非常勤講師の先生より、授業の改善への多くの示唆が与えられたとの報告をいただいています。

令和５年度もアフターコロナの状況で、FD活動の必要性は高まっていくでしょう。令和４年度の経験・実績を踏まえ、本学の教育内容・方法の改善を引き続き図っていきます。